

おたふくかぜワクチン

【おたふくかぜについて】

おたふくかぜは流行性耳下腺炎・ムンプスともよばれ、咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染や、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染によって広まります。

増殖したウイルスは全身に広がり各臓器で病変をおこします。主な症状は耳下腺の腫れと痛み、発熱です。顎下腺や耳下腺も腫れることがあります。

合併症として1～10%に無菌性髄膜炎の発症があります。感音性難聴がおこることもあり回復しにいとされています。精巣炎、卵巣炎、脳炎、膵炎も報告されています。

おたふくかぜの発症は3～6歳に多くみられます。

【おたふくかぜワクチンについて】

弱毒化したムンプスウイルスを用いた生ワクチンです。

1回の接種で90%以上の方が抗体を獲得します。

副反応として 接種部位の一過性の発赤腫脹のほか、約1%の人に接種後2～3週間頃 軽い耳下腺の腫脹がみられます。ワクチンによる無菌性髄膜炎は接種後2～3週ころにおこり発症率は0.03～0.06%とされています。

まれに血小板減少性紫斑病、難聴、精巣炎などの報告があります。

【接種方法】 ワクチン0.5mlを皮下に接種します。

【スケジュール】 1歳以上で接種することができます。

日本小児科学会では、1歳と5～7歳頃 の計2回の接種を推奨しています。

【接種費用】 任意接種のため自己負担になります。

【持参するもの】 任意接種用予診票（体温以外の項目をあらかじめ記入しておいてください。）

母子健康手帳

※おたふくかぜワクチンはニワトリ胚培養細胞を用いてウイルスを増殖させていますが卵そのものは使用しておらず、卵アレルギーを理由に接種できないということはありません。ただしワクチンに含まれる他の成分によるアレルギー反応を起こすことがありますので、卵に限らず強いアレルギー症状を有する方は医師に相談してください。